

「Kさんの新たな課題と取り組み」

○発表者名 社福) 祥和会 祥福園 本城勇人

共同研究者名 社福) 祥和会 祥福園 足立竜輔

1. 問題提起

前回の研究発表における支援内容にて一定の成果は出たが、すぐに新たな課題に直面してしまつた。令和7年2月頃より食事にかかる時間が長くなり始め、食事を途中で中止してしまう頻度が増加。それにより体重が減少傾向となってしまう。睡眠時間も減少。保護者さんも体重減少を気にしておられる。

2. 目的

毎日、食事を食べることができ、また睡眠も充分にとることで健康的な体を維持する。食事時間を短縮することで、運動やお楽しみなど、他の活動時間を増やし、生活の質の向上を目指す。

3. 方法

普段の様子と帰省後の変化から考察し、以下の施策を実施。

- 【1】廊下にカーテンを設置する。
- 【2】個人購入で補食を購入し提供する
- 【3】食事以外の楽しみを取り入れる
- 【4】リフレッシュ休暇の導入

4. 成果・課題

成果

- ・雑音が少なくなり、精神状態安定した。
- ・毎日、同じ物を食べるのではなく、食事に変化が付き、自分で選んで食べるという楽しみが増えた。
- ・運動などを積極的に取り入れることにより、笑顔が増え、生活にメリハリが生まれた。運動による食欲促進効果も現れた。
- ・リフレッシュ休暇により、帰省同等の変化を得ることができた。

課題

- ・リフレッシュ休暇の回数を重ねるごとに効果が薄くなってきている。
- ・Kさんの支援に対して苦手意識をもっている職員もおり、起床から食事時間までに時間がかかり、1日スタートが遅れ、全体が遅れてしまうことがある。

以上

Kさんの新たな課題と取り組み

発表者 祥福園 課長補佐 足立竜輔
主任 本城勇人

Kさんプロフィール

- ・ 2020年7月より祥福園入所
- ・ ダウン症
- ・ 慢性肺炎
- ・ 痛風

- ・ うるさい環境が苦手（高い声、くしゃみ、物を叩く音など）
- ・ 執拗な声掛けが苦手
- ・ 不調の際、確認行動が頻発してしまう
- ・ 荒れた言葉が目立つ際はクールダウンを設けると穏やかになる

好きなもの：バトミントン、卓球、ボール蹴り、ダンス、音楽鑑賞

祥福園 みのりユニット

前回の振り返り



祥福園に入所した頃から立腹する頻度が増加傾向
他害や自傷などが増えてしまう

原因を特定（要因として設定）

他利用者の高い声が聞こえてしまう、集団生活の不慣れから思い通りにいかない、好きな物が食べられない、緩慢な動き、環境が適していないなど

要因をなくすため実践

- ・ 静かな環境確保のため居室を移動（食堂前から棟内一番奥へ）
- ・ 1週間のスケジュールを作成（メリハリをつける）
- ・ お楽しみを増やす（食事にラーメンなどの好きな物を取り入れる）
- ・ 本人の生活の流れに沿った声掛けをする

実践した結果

音に反応してしまったりは現在も継続しているが頻度は減少傾向となる
クールタイムの時間が当時より半分以下まで下がった
職員との関わりで笑顔が見られるようになる

【大前提】
必ず理解しておかなければ
ならないこと

↓
支援者側は過度に
急かしてはならない！！

新たな課題

問題提議

令和7年2月頃より食事にかかる時間が長くなり始め、食事を途中で中止してしまふ頻度が増加。それにより体重が減少傾向となつてしまふ。

祥福園 みのりユニット

祥福園での食事の時間のおおよその目安

- 朝食：7時50分頃～8時20分
- 間（ティータイム）
- 昼食：12時頃～12時30分
- 間（ジュース・おやつ）
- 夕食：17時10分頃～17時40分

身体起こしたりトイレに行くのに動きが緩慢なときは早ければ30分前、遅ければ1時間以上掛かる。さらに周囲の騒音などで立腹されてしまつた場合は更に時間を要してしまふ。

Kさんの場合

- 朝食：起床時間により変動（7時30分～9時前）～11時頃から12時
- 間（ティータイム）朝食次第
- 昼食：12時30分から13時前～16時頃から16時45分頃
- 間（ジュース・おやつ）昼食次第
- 夕食：17時から17時30分～21時前から23時前後

昼食時間になつても、朝食が終わらない。夕食の時間になつても夕食が終わらない。提供時間の観点から破棄せざるを得ない状況が続いていました。

他にもこういった影響あり

夕食終了が23時前後になることが多く、睡眠時間にも影響
※食後に歯磨き、トイレ誘導があり早めに食べ終えたとしても結果的に日付を超えてしまふ。



安定した睡眠時間を確保することができない
寝付くのに時間を要するため睡眠時間が4～5時間となつてしまふ



起床するのに睡眠時間の不足からスムーズに起きることができず、朝食を開始するのに時間を要してしまふ



【負のサイクル】が完成してしまつていた

なぜここまで食事のペースが遅くなってしまうのか？

不調時に見られる食事の手が止まる確認行動が増加。
その不調が連日多く確認されていた
そこに普段の一口に摂取する量の少なさが重なってしまい
食事の時間が極限まで遅くなってしまっていた。

Kさんの普段口に入れていた小スプーンの量

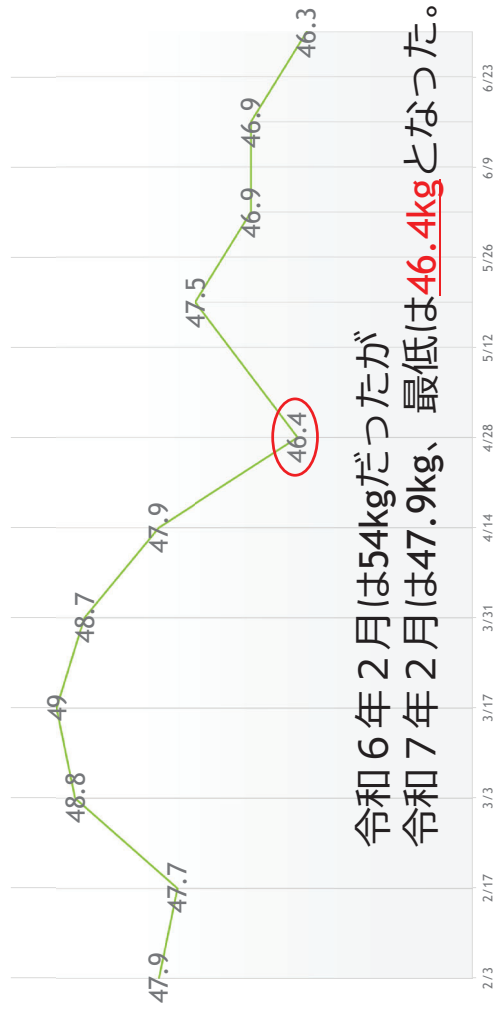


～食事中に見られる確認行動
(納得できるまで何度も繰り返す)の種類～

- ・床に座る
- ・近くに置いてあるカレンダーや小物を構う
- ・指を口の中に入れる
- ・衣服の袖やパンツの皺を伸ばして縮める
- ・食器やスプーンを置いたり持ったりする
- ・スプーンで掬った食材を口に含んだ後に口から出す。
- ・スプーンに掬ってある食材の位置を口先で移動
- ・飲み物を1回1回時間をかけて少しずつ摂取する

未確認の確認行動もあり。

Kさんの体重推移 (R7.2.3~R7.6.30)



令和6年2月は54kgだったが
令和7年2月は47.9kg、最低は46.4kgとなった。

体重減少をどのように解決すればいいか分析

令和7年のゴールデンウィーク期間に
数日間自宅に帰省

その際にご本人にとある変化がありました

とある現象に着目

帰園後、食事のペースが帰省前と比べると
著しく改善していました。

帰省前（開始後、終わるのに約3～4時間）

- 朝食：7時30分から9時前～11時頃から12時
- 間（ティータイム）朝食次第
- 昼食：12時30分から13時前～16時頃から16時45分頃
- 間（ジュース・おやつ）昼食次第
- 夕食：17時から17時30分～21時前から23時前後



帰省後（開始後、終わるのに約2時間～2時間30分）

- 朝食：7時30分から9時前～10時から11時
- 間（ティータイム）朝食次第
- 昼食：12時～13時30分から14時30分
- 間（ジュース・おやつ）昼食次第
- 夕食：16時45分から17時～19時から20時

帰省前と比較すると
約半分の時間！
また確認行動も減少し
摂取に集中できている！

帰省後、食事スピードが改善しました

しかし長くは続かず...

1ヶ月辺りから徐々に帰省前と同様の動きが見られ始める
ようになってしまい、結果的に元の時間に戻ってしまう...

とある仮説を立案

帰省後に調子がなぜよくなったのか？

帰省中、Kさんの置かれる環境や過ごしている様子など
にヒントはないか？



家に近い環境に近づけるような支援ができれば...

= 支援プランをいくつか立てて実践